

どこにいても「患者さんや家族が安心できるように」
初志を忘れず、相手への思いやりを大切に、グローバルヘルスに貢献したい看護師

せいのかおり 清野 香織

国際医療協力局
人材開発部
広報情報課/研修課併任
看護師



★略歴

- 2004 ネバダ州立大学 リノ校 看護学科 卒業
- 2007 仙台厚生病院 心臓血管外科・循環器内科病棟
- 2012 綾瀬循環器病院 ICU
- 2016 国立国際医療研究センター病院 16階特別個室病棟・14階個室病棟
- 2021 国際医療協力局

★現在の主な担当業務

- ・研修課、広報情報課、ライフコースヘルsteam

清野さんが、看護師、国際協力を目指したきっかけを教えてください。

高校生の頃、日本人の女性が海外で活躍している姿を雑誌かなにかの記事をみて「かつこいい」こんな風になってみたいなと憧れを抱いたことがきっかけです。

そのころ進路で悩んでおり、地元の大学受験など、悶々と自分のやりたいことは何かを考えていました。そんなとき、英語を学ぶことで何かできることがあるのではないかと、英語で何かできるようになれば可能性はさらに広がる、と単純に考えていました。

周りに留学をしている人もいないし、英語も話せないし、ただ夢みたいのことを考えているだけなのかと悩んでいたところ、アメリカの大学に必要な英語の4技能（書く・話す・よむ・聞く）を学ぶ専門学校で留学前に準備できることを知り、これだ！！と道が開けたような感覚は今でも覚えています。

そこから、親や学校の先生に説明をしていく苦労が始まるのですが・・・

初めから看護師を志したのですか。大学時代のお話を聞かせてください。

ネバダ州立大学リノ校に留学しました。

大学の専攻は何回でもかえることができます。ただし、それぞれの分野で必須な科目や単位数があるので、早めに絞って計画的に進めていかないと、いつまでたっても卒業できません。

だいたい1-2年目で一般教養のクラス、3年目から専攻クラスという流れが一般的なのかもしれませんが。

私の場合は、始めは経済学・・・そこから始まりました。

実は、看護師になろうとは思っていませんでした。どちらかという、病院は好きではない。なのにまさか自分が病院で働くことになるとは想像もしていませんでした。しかし、いろいろな選択肢を考えていく中で、徐々に看護師の仕事に惹かれていきました。さらに看護師なら、国を越えてどこでも働くことができる（実際は資格が必要なのですが）ことが、国際協力をやりたいと思っていた私にとっては最大の魅力でした。看護学科に入れるように勉強をして、3年目からようやく看護を学び始めることができました。



ネバダ大学リノ校時代アルバイトしていた図書館の前

看護学科には順調に入学できたのですか。

看護学科に入るタイミングは1年に2回、教養課程のGPA（成績評価）で決まります。卒業するまでも大変でしたが、看護学科に入るまでも日々苦労の連続でした。深夜まで図書館にこもってテスト勉強をしました。当時、学校の学生寮に住んでいましたが、テスト期間になると必ずと言っていいほど火災報知器が作動します。皆がいたずらに違いないと思いながらも強制的に寮の外に出されるのです。恒例行事ですよ。安全確認がとれて、部屋に戻るときには全員がブラックライトを浴びてチェックされます。アメリカ時代学んだサバイバル術のひとつは、テスト期間は、寮の部屋ではなく、図書館へ避難することでした。

1クラス40名程度の仲間とともに勉強します。病院実習もあり、課題もたくさんあり、いつもへとへとでした。やはり英語には苦労しました。



看護学科時代お互いに初めての筋肉注射の練習

当たり前ですが、患者さんや、看護師や病院のスタッフとのコミュニケーションをとるのは非常に大変でした。どうして自分にはできないのかと落ち込み、トイレで何度泣いたか数え切れません。でもそんな時、同じ目標を持った仲間が助けてくれました。今となってみれば、大変でしたがすべて良い経験だったと思います。



看護学科校時代の仲間と



新しい図書館で友達と

NCGM入職するまでのキャリアを教えてください。

無事に看護学科を卒業し、帰国後は看護師として、仙台の病院で心臓血管外科・循環器の混合病棟で働き始めました。心臓手術後の日々状態の変わる看護は大変難しく大変でした。しかし、手術後リハビリをしながら回復して退院していく患者さんを見ると、自分も頑張ろうと思って必死で仕事をしました。その頃は、患者さんからもいろいろなことを教わりました。上京して、循環器専門病院のICUで働き、集中ケアを学びましたが、やはり心の中では国際協力の分野で働いてみたいという思いがあり、NCGMに転職することになりました。

NCGMに入職してからは、どんな部署を経験されたのですか。

NCGMでは特別個室病棟に配属となりました。当時、ベトナムや中国などからの患者が入院しており驚くことが多かったのを覚えています。日本の病院の当たり前が彼らにとってはそうではなかった事に気がつくことができました。

日本の病院は完全看護なので、患者ケアなどは看護師が行うのですが、ベトナムでは家族が行います。何気なくいつも通りケアをしようとして、怪訝な顔をされることや、拒否されることは多々ありました。そのうえ、言葉の通じない患者さん、家族の看護は大変で、予想もしない出来事もありました。そのため、病棟内でよくカンファレンスを行いました。ベトナムについての勉強会では文化や医療制度についても学びました。その中でも、覚えたベトナム語で挨拶をした時、相手から笑顔が見れたことがとてもうれしかったです。

NCGMに入職するときから、国際協力に興味があることを師長さん方に伝えており、ようやく今年（2021年）の4月から国際協力局へ異動できることとなりました。

今後の展望や、やってみたい仕事を教えてください。

まだ具体的にこれという仕事決まっていません。今はどんなことでもチャレンジしてみたいと思っています。看護師になった時から「患者さんや家族が安心できるように」という思いをもっており、病棟であろうと国際協力の場であろうとどんなフィールドであっても共通すると思っています。相手への思いやりを大切にしながら、たくさんの方との出会いを通して、日々成長していけたらと思っています。

最後に、これから世界を目指そうとしている人にメッセージをお願いします。

中学校の恩師が「人生は囲碁のようだ」と言っていました。“次の一手”をどうするのか。この言葉の意味が人生と重なるところがあるということを最近になってようやくわかってきた気がします。勢いに任せて行動したり、しぶとくタイミングを待ってみたり、ちょっと休憩してみたり、周りに相談することもあります。今、やりたいことができていないと覚えることがあると思います。しかし、それをどう活かしていくのか考え、これからどう行動するのが大切だと思います。想いつづけていればいつか叶うと信じて頑張りましょう。



ありがとうございました。